

発行：弘前大学大学院地域社会研究科

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/Tlag/index.html>

編集協力：NPO法人ひろだいいりサーチ

印刷：やまと印刷株式会社

つなげれば、もっと つなげたくなる地域との連携



研究科長

北原 啓司

地域社会研究科長の任を務めてから、二年が経とうとしています。佐々木副研究科長を始めとする専任教員の皆さんのご協力、そして、学務部教務課のスタッフの的確なワークのおかげで、何とか一期を勤め上げることができました。今年の四月から、改めて研究科長を拝命することとなり、身の引き締まる思いですが、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

昨年度に研究科長に就任以来、地域社会との関係性が高い本研究科では、地域との連携をさらに強化しながら、研究の質を高めていくと同時に、地域に実質的な貢献をしていくことを考えた実践を続けてきました。青森県からの受託による「集落地域の実態把握と住民主体の計画・目標づくりに関する研究」、「おおもりツーリズム創発塾」の活動は、さらに多面的な展開となつて進んでいます。研究科の専任教員への、様々な自治体からの研究会講師やワークショップのアドバイス等の依頼が、着実に増加してきました。

また、昨年度に報告させていただいた英国ニューカッスル大学との研究交流に向けた意見交換を、27年度には現地から、カルメン・ハバード氏とアン・リドン氏を招聘する三月の国際シンポジウムにつなげることができました。その講師依頼と打合せを兼ねて、昨年十二月には、社会連携担当理事の大河原隆副学長と北原、平

井で現地に赴き、大学院再編における地域創生に貢献すべき大学の役割、そして一方で現在検討が始まっている、地域連携のための研究センター設置のための助言をいただき、それを三月のシンポジウムで、学長を始め聴講された大学の方々、弘前市をはじめとする自治体の皆さんにも提起することが出来ました。

新年度は、この経験の蓄積をさらなる実現化に向けた取り組みにつなげるべく、努力していきたいと考えています。さらなる、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

青森県集落経営再生 ・活性化事業

二か年の共同研究の二年目に当たる今年度は各地域で住民自身による事業の立案・実施・検証が進められた。弘前市常盤野地区では学生によるモニターツアーが、平内町藤沢第一地区では公民館での健康教室や共有林でのハタケシメジ栽培など新たな活動が生れた。三沢市根井地区では地域行事での世代間交流の広がりや学生と子どもたちの交流の定期化により旧小学校の再拠点化の兆しが見えてきた。七戸町白石地区では古い盆踊りを復活し多世代交流型盆踊大会が開催されたほか、土曜保育での剣舞教授、山の恵みの直売所開設とその収益の地域還元などが始まった。さらに新郷村川代地区では地域の食材をいかした新たなイベントなどに取り組み、WSでその成果を地域全体で共有・検証した。最後の川代地区同様それぞれの地区で、今後五年、十年を見すえ地域のみなさん（住民と行政）が効果や持続性を検証し、自律的に事業を展開しつつあるのが重要である。

二年間の研究を通じた知見を二つに絞れば、

第一に持続的な地域活動を構想する核には地域の共有財産と世代間の交流・継承があった。共有財産としては共有林や空き地、何よりも跡地・後継施設を含めた小学校がある。その意味では次世代との関わりを地域にいか埋め込みなおすかが鍵を握っている。第二にそうした取り組みへの大学の関わりには、(一)一定数の学部生によるコミュニケーション主体型の関与と(二)院生や研究員等による専門知識を駆使したアドボカシー型の関与とがあり、それぞれの有効性が確認された。

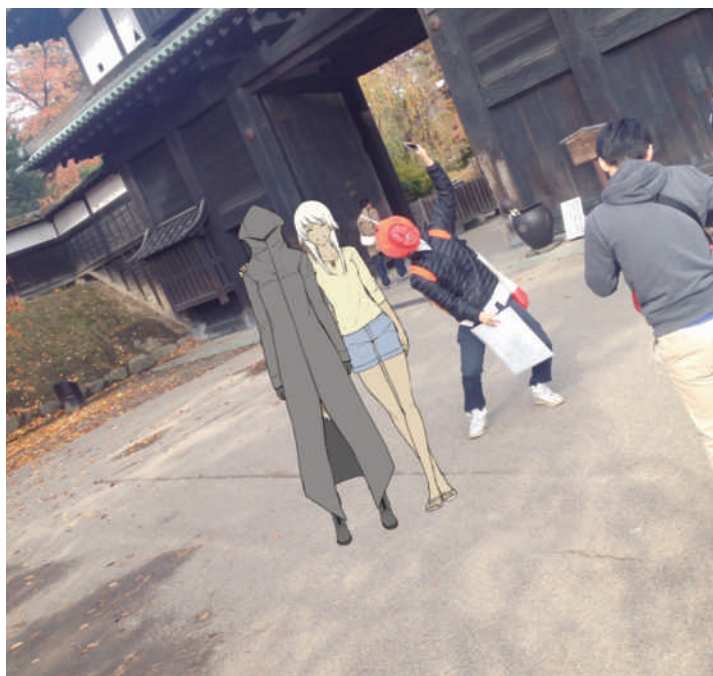
これら成果を受け青森県では次年度(一)学生インターン、(二)院生・研究員ファシリテータ派遣を新たに事業化するほか、各市町村で今回のモデルケースの普及展開事業を計画している。大学としてはそれらと息長く伴走し地域の取組みが持続するプロセスやそれに対する関与のあり方について、類を見ない貴重な知見を得、発信すべきであろう。(准教授・平井 太郎)



あおもりツーリズム創発塾

まちあるき観光の人材育成と地域資源への新たな視点の掘り起しを目指す本事業では今年度三つの成果があった。第一に昨年度から取り組む板柳地区での担い手の組織化である。同地区では今年度、従来の商工会青年部の枠を超え出身学生やデザイナーに輪を広げた新たな組織「板柳まちプロジェクト」の自律的な活動が始まった。第二に観光人材の対象を県内で導入が広がる地域おこし協力隊に広げた。それにより聖地巡礼という新たな視点も吸収・波及しえた。第三にソウルフードをテーマにした公開講座を開催したところ百名近い参加者が集まり、郷土料理ともB級グルメとも異なる新たな食文化への視点が共有された。今年度はさらに中泊町出身の若者組織「い・なかどまり」も新たに結成され、次年度以降、新しいまちあるき観光の担い手としてともに育つことが期待される。

(准教授・平井 太郎)



平成二十七年度 地域社会研究科学位論文の紹介

今年度は左記の三名から学位論文審査申請があり、平成二十八年二月六日(土)に学位論文審査公開審査会が開催され、活発な質疑応答が行われた。

○小山内筆子

「成人吃音における合成音声を用いた在宅吃音訓練法に関する研究」

(主査：小山智史教授)

○下田 雄次

「民俗芸能」の「現在」―日常の中の実践と客体化―

(主査：山田巖子教授)

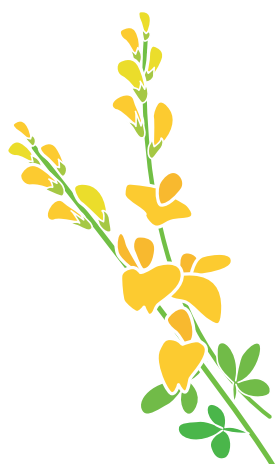
○吉崎 聡子

「自律的動機づけに関する有機的統合理論と基本的心理的欲求理論の統合的検証」

(主査：平岡恭一教授)

諸分野の結集した地域社会研究科らしく研究テーマは多様だが、先端的な理論や対象へのアプローチを通じて実践的な知見が産出された。審査を経て三名とも博士(学術)の学位授与が認定された。

(准教授・土井 良浩)



地域社会研究科後援事業

「『函館酪農公社』移動販売車に見る買物過疎地域への社会貢献的役割の研究」報告会

NPOひろだいリサーチ報告会が、平成二十八年二月二十八日、十和田市交流センターにて開催された。弘前大学・竹ヶ原公客員研究員、青森大学・井上隆教授、弘前大学・佐々木純一郎教授の研究報告、そして東北牧場・九十九ひろ子代表の事例紹介が続いた。

討論では、北里大学・東善行教授及び嶋栄吉元教授をはじめ、出席者から熱心な質疑応答がなされ、地域ブランドに地域企業が果たす役割などが議論された。最後に、ひろだいリサーチが各地の社会的課題を引き続き研究することが確認された。(教授 佐々木純一郎)



入試案内

弘前大学・大学院地域社会研究科の入学試験については、左記までお問い合わせください。

弘前大学学務部入試課

〇一七二―三九―三九七三
三一九三

★当研究科では、所属する教員や学生が研究成果等を発表する「地域社会研究会」を公開で定期的開催しています。興味のある方は、左記までお問い合わせください。

弘前大学学務部教務課

〇一七二―三九―三九六〇